

前衆議院議員

木原誠二

活動報告書

せいじ便り 36号

揺るぎなき挑戦!!



消費税を考える

与謝野馨さんが、財政再建の使命を帯びて政権入りされました。自民党の民主党批判は甘いと言つて新党を結成され、民主党を批判してきた与謝野さんの行動には様々な意見があります。が、一つ言えることは、議員辞職して民間人として入閣された方がよかつたということ。

消費税上げは必要、社会構造の変化、

それはさておき、財政再建と消費税上げについて、整理したいと思います。

現在の日本の税構造：歳入構造は明らかに直接税（所得税・法人税）に偏っています。ところが、直接税は、経済成長時はいいのですが、二度不況期に入ると厳しい状況になります。実際、法人税は、ピーク時が19兆円、今や6兆円。日本の税構造は景気に弱いということです。

他方、歳出面からも構造変化があります。公共事業予算が多かつた時代は、税収が足りなくなれば、5年で作る予定の道路を10年に、10年で完成予定の飛行場を15年に延ばしたりと、調整ができました。

しかし、今や借金返済を除いた歳出の3分の1超が社会保障費。税収が足りないといつて年金額を落としたり、診療回数を制限したりはできません。

消費税上げによる安定財源が欠かせない状況です。

消費税の無駄遣い

ところが、民主党政権のやり方では、砂漠に水をまくような「消費税の無駄使い」に終わってしまいます。

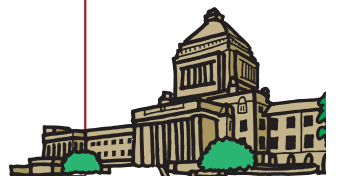
民主党政権は、新たな政策として子ども手当、農家戸別所得補償、高速道路無料化などを実施しています。しかも、子ども手当は半分支給にとどまるなど、最終的には17兆円もの施策を実施予定です。

これでは、いくら消費税を引き上げても、財政再建・健全化には全く役立ちません（仮に5%引上げて税収約10兆円を確保しても、全て新規施策に消えてしまいます）。

消費税上げは、バラマキ廃止が大前提

ちなみに、当初の予定では、無駄削減で財源調達ということになっていたはずですが、恒久財源として確保できたのは3兆円超止まり。本来大きな財源となるはずであった公務員人件費の2割削減や天下り根絶による補助金削減も全く手をつけられていません。

こんな状況ですから、「消費税上げ＝財政再建」とはなりません。まずは、歳出構造に見直し、とりわけバラマキ施策の見直しに取り組むことです。



日本外交の建直しを

民主党外交の失敗

人材開発関連の中堅企業でサラリーマン生活を開始して早1年。会社はアジア展開を進めており、私も中国担当として仕事をしています。

財務省時代は、イラク復興支援やインドネシア破綻支援などの国際交渉に臨み、英国大蔵省出向時代も英国代表として金融犯罪取り締まりの国際枠組み作りの交渉にも臨みましたが、久しぶりに国際経済の現場に身を置くと、最近の日本外交の漂流ぶりには怒りすら覚えます。

尖閣問題から始まる外交力の欠如から学ぶべきことはなんでしょうか。

お友達作りの大切さ

外交の基本は、①友達を多くもつこと、②その友達を大切にすること、③敵には隙を与えないこと、④自分の強みと弱みをしっかり認識すること、⑤明確なメッセージを迅速に出すこと。

ところが、民主党政権はいずれもが来ていません。

第一に、お友達を大切にしなかったこ

と。「米国はお友達だからきつと分かってくれる」と勝手に考えて、「国外移設だ、県外移設だ」と見通しもない約束をして、普天間基地問題などで米国をないがしろにしてみました。米国との微妙な隙間風につけこんで、中国やロシアが動いたことは間違いありません。

第二に、友達を増やす努力を怠っていること。評判の悪かった自民党最後の麻生政権ですが、よいこともしていました。その二つが、エコポイントやエコカー減税などの経済対策。そしてもう一つが、「自由と繁栄の孤」という新たな外交政策。

「自由と繁栄の孤」とは、モンゴルやキプロスといった中央アジアやコーカサスの国々、インドネシアやタイなどのASEAN諸国、大国インドやトルコとの間をつないで、共産主義国家中国を取り囲んでいこうという戦略です。

ところが、民主党政権は、この戦略をあつさりとしてしまいました。結果的に、一時興味を示していたロシアまで中国側に追いやってしまいました。

第三に、明確なメッセージが迅速に出せないこと。北朝鮮による大延坪島に対する砲撃の際も、時差の関係で深夜から

未明であった米国に遅れること7時間後に、正式見解を出すという遅さでした。

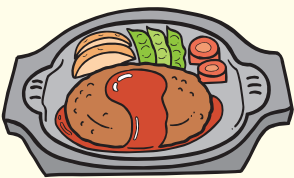
今後の方向性

外交建直しは急務です。その第一は日米同盟の強化です。韓国同様、日米の共同の軍事演習などに取組むべきです。第二に、麻生政権の「自由と繁栄の孤」を復活して、中国囲い込み戦略を着実に実行していくこと。とりわけ、ASEAN、インドとの連携を強めること。第三に、日本の強みである経済を立て直すこと。経済力のない日本と「友達になりたい」と思う国は多くはありません。

コラム サラリーマン日誌

私が働く虎ノ門・新橋界隈のレストランの紹介を二つ。名前は地中海料理のBar Tapas。有名レストランのシェフだった方が最近開いた洒落たお店で、とにかく

ハンバーグとソースが絶品。大食いはちよつとボリューム不足の感もありますが、そんなときはごはん大盛りで!!



木原せいじプロフィール

年金・医療・介護、障害者福祉、行財財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。

1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

木原せいじ事務所

東村山事務所
〒189-0013 東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2F
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

オフィシャルブログ

<http://ameblo.jp/kiharaseiji/>

twitter ID

http://twitter.com/kihara_seiji



木原せいじ公式 モバイルサイト

<http://kiharaseiji.com/k/>
携帯電話から木原せいじ
モバイルにつながります。